

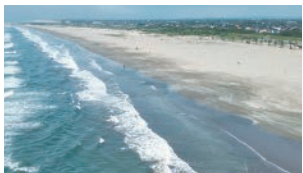
山武市

海と緑に囲まれた山武市

今年で市制施行20周年を迎えた山武市は、千葉県の東部に位置し、千葉市や成田国際空港まで約10から30km、都心へも約50から70kmのところにあります。日本有数の砂浜海岸である九十九里浜のほぼ中央で約8kmにわたって太平洋に面し、総面積は146.77km²ある市です。

市の魅力

当市では美しい海水浴場を次世代へ継承していくため、環境保全や安全対策に積極的に取り組んでいます。その成果として、本須賀海水浴場が国際環境認証「ブルーフラッグ」を2019年以降8年連続で取得することができ、夏には本須賀海水浴場に多くの方が足を運びます。



産業面では、農業・

漁業が発展しており、関東有数の産地をもつ母や九十九里浜で捕れたハマグリ、地元で採れた新鮮な野菜など多彩な特産品が市内外から高い評価

を得ています。

さらに、地域の特色を生かしたイベントも開催しています。7月に蓮沼海滨公園で開催する「サマーカーニバル」では華やかなサンパレードをはじめ、多彩なステージイベント、飲食物販ブース、キッチンカーの出店、縁日など、子どもから大人まで一日中楽しむことができます。フィナーレには、海岸から打ち上げられる花火が夏の夜空を鮮やかに彩り、多くの来場者を魅了しています。また、1月に開催する「さんむ母まつり」では、甘みが際立つ採れたての新鮮な母や、このイベントでしか味わうことができない苺スイーツ、地元グルメが勢ぞろいし、多くの人で賑わいます。



当市には、おいしい農水産物や観光地、イベントなどたくさん魅力があります。ぜひ一度、山武市へ足を運び、その魅力を体感してみてください。皆さまのお越しをお待ちしております。

酒々井町

まちづくりは、ひとづくり
ともに創ろう、酒々井の未来！

酒々井町は、明治22年の町村制施行により「酒々井町」が誕生して以来、二度も合併しておらず、日本で最も古い町の一つです。また、中世に下総国を統治した関東の名族である千葉氏の最後の居城となった国史跡「本佐倉城跡」や、令和元年10月に国史跡に指定された約3万4千年前の後期旧石器時代の生活痕跡である「墨古沢遺跡」があります。さらに、成田街道沿いには旧酒々井宿の町並みが残り、当時の繁栄を今に伝えています。まさに歴史と文化が息づく町です。

谷津田や里山などの豊かな自然環境は現在も人々によって大切に守られており、夏には蜚の姿も見られます。清らかな湧き水や地下水も豊富なことから、親しいの孝行息子が見つけた井戸から汲んだ水が酒になったという「酒の井伝説」が町名の由来となっています。その名のとおり、町内には300年以上の伝統を引き継ぐ酒蔵もあり、毎年11月には「酒々井新酒祭」が開催され、多くの人で賑わっています。

町の面積は19.01km²と千葉県内で2番目に小さいですが、JR成田線・JR総武本線・京成本線の3路線4駅が置かれ、国道51号と国道296号が通り、東関東自動車道酒々井インターチェンジも整備されています。これにより、都心へは約50分、成田国際空港へは約20分で結ばれており、コンパクトで非常に利便性の高い町となっています。



このような立地環境を活かし、第2の開港を控えた成田国際空港に近接している利点を最大限に生かすため、酒々井インターチェンジのポテンシャルを十分に発揮できるよう、県との連携を強化し周辺土地利用の推進を図ります。また、新規事業者の誘致活動も積極的に進めてまいります。

これからも、町民の皆様と行政が共に手を取り合い、より住みやすく、より魅力あふれる酒々井町を創っていくため、まちづくりを進めてまいります。

長南町

住む人にも訪れる人にも選ばれる
魅力あふれるまちづくり

長南町は、千葉県のほぼ中央部に位置し、都心から約60km圏内にありながら、豊かな里山の自然と古くから受け継がれてきた歴史と文化が息づく町です。昭和30年に1町3村が合併して誕生し、令和7年には合併70周年を迎えました。圏央道の茂原長南インターチェンジの開通により、首都圏からのアクセスが飛躍的に向上し、四季折々の風景や町内の名所を訪ねる観光地としての魅力が高まっています。国指定重要文化財である笠森寺観音堂や全国名水百選に選ばれた熊野の清水など、町内には歴史と文化を今に伝える貴重な地域資源が点在しています。



ミハラシテラスからの眺望

ます。町の特産品である米やレンコンなどの農産物を通じて、長南町の風土や人の温かさを感じてもらうことで、地域活性化と観光振興を支える拠点となることが期待されます。

また、廃校などの空き公共施設が撮影スタジオや宿泊施設、カフェなどに生まれ変わり、地域に新しい人の流れをもたらしてくれています。さらに、地域の魅力をより多くの方に知っていただくための新たな施策として、都市部からの参加者が2週間町に滞在し、地域の暮らしや体験などを通じて感じた町の魅力をSNSで発信する「長南町おためし居住推進事業『遊ぶ広報』」も開始しました。

町では現在、直売所交流施設の整備を進めているところで、買い物の場にとどまらず、町民や地域の生産者、観光客が交流する新たな拠点となることを目指しています。



日本唯一の「四方懸造」構造
笠森寺観音堂

長南町では、受け継がれてきた自然と歴史を大切にしながら、新たな交流と挑戦を積み重ね、住む人にも訪れる人にも選ばれる、魅力あふれるまちづくりを進めています。これからも、地域資源を生かした観光や交流を通じて、里山の価値を未来へつなぐ、町のにぎわいを育んでいきます。

鋸南町

三ツ星のふるさと・鋸南

鋸南町は房総半島の南西にあり、東京から車で80分ほどに位置しています。北部には、聖武天皇の勅願により開山された「日本寺」の霊場であり、開山された「日本寺」の霊場であり、知られる鋸山があり、その南に位置していることから「鋸南町」と名付けられました。

水仙の日本三大群生地

鋸南町は、日本の水仙三大群生地の一つとしても知られています。12月からは「水仙まつり」が開催され、江戸水仙ロードや佐久間ダム湖周辺の斜面に可憐な水仙の花が咲き誇ります。あたり一面に甘い香りが漂い、多くの人々が訪れる冬の風物詩となっています。



源頼朝と頼朝桜

日本一の桜の里を目指しています。「相州石橋山の合戦」で平家との戦に敗れた源頼朝は、小船で鋸南町の海岸に上陸し、再起を図りました。この史実に因み、河津

桜に「頼朝桜」という愛称をつけ、町内に約1万6千本が植栽されました。2月頃からは「頼朝桜まつり」が開催され町のいたる所がピンク色に美しく彩られます。

都市交流施設・道の駅保田小学校

廃校になった町立保田小学校をリノベーションし、平成27年12月にオープンした「都市交流施設・道の駅保田小学校」は、廃校活用先の先進事例として広く取り上げられ、年間約90万人の観光客が来訪しました。

令和5年10月には施設を拡張し、子どもたちが安心して遊べる「プレイカフェ」や「複合遊具」を整備し、快適で心地よい空間が広がる施設となっています。

子育てを応援

子育て世代を応援するために、学校給食費、高校生までの子ども医療費の無償化や出産・子育て応援給付金などを実施し、安心して子育てできる環境づくりに力を入れています。